

観光まちづくり調査研究事業 中間報告書

[平成18年10月24日作成]

美郷商工会

．吉野川市観光まちづくり計画の性格

1．策定の趣旨

吉野川市では、平成１８年４月に「吉野川市総合計画」が策定されました。この計画では「世代を越えて、夢紡ぐまち ～新・生活創造都市をめざして～」を市の将来像と位置づけ、豊かな自然環境と都市的な集積を生かしながら、大都市にはない個性を育てながら、これまで以上に人と物が集まる、吉野川市中流域ならではの拠点都市づくりが進められています。

吉野川市らしい魅力ある観光振興に向けての諸施策が推進中であり、民間においても観光振興による地域活性化の機運が高まりを見せています。

吉野川市が観光振興を実現するためには、「観光客が訪れたくなるような魅力にあふれたまちを創るということは、市民が愛し、誇ることでできるまちを創っていくことである」ということを意識し、市民の積極的な参画と行政の着実な取り組みが必要となります。

本計画は、吉野川市の観光振興に関する総合的な計画として、今後の取り組みに向けた基本方向と、その基本施策を明らかにするために策定するものです。

・吉野川市の観光の特性と課題

1. 吉野川市の観光資源

(1) 主な観光資源（四国観光検定公式テキストブックより）

藤井寺（四国霊場）、高越山、江川湧水源、鴨島大菊人形、吉野川遊園地、川島城、阿波和紙伝統産業会館、船窪つつじ公園、水辺の学校 バンブーパーク、高開の石積み、美郷物産館

「吉野川市の宝」資料 1 参照（吉野川に架かる橋は除いています）

【参考文献・資料】

徳島県 HP「とくしまのたからもの」

吉野川市 HP「吉野川市観光ガイド」

2. 吉野川市の観光特性

吉野川市の観光資源は、全体的に集客型の資源に乏しく、観光利用の対象となっている資源が限られている、現状のままでは魅力に乏しい、単独では観光利用の対象となりにくいなどの問題点もあります。

しかし、本市の場合「まちづくり型資源」とでもいうべき、吉野川という川と橋と川中島のある風景のような個性あふれる素材の存在が大きな特徴であります。

「生活文化型資源」としての「吉野川市の個性、吉野川市らしさ」という点では、地域の人と交流できる温泉施設や農産市、豊かな生活が形成されている鴨島町を中心にした生活空間、吉野川市のルーツ「忌部・古事記物語」等のように、本市が誇り、現在に受け継がれている歴史的なものがあります。

これらは本市のまちづくりと関連づけ、その活用を図ることによって観光振興の有力な資源となりうるものです。

さらに、本市には代表する郷土料理がないものの、焼鳥、豆腐、そばなど蓄積された食文化があります。実演・体験が楽しめるという点では手漉き和紙、そして梅・ぶどう・すだち等の特産地でもあります。

本市の観光・祭り・イベント等への客数は、推計で年間に約 85 万人ですが、そのほとんどが日帰り客で占められていると考えられます。

．あるべき姿の方向性

1. 吉野川市の観光のあるべき姿の方向性

吉野川市では、平成18年4月に「吉野川市総合計画」が策定されました。この計画では「世代を越えて、夢紡ぐまち ～新・生活創造都市をめざして～」を市の将来像と位置づけ、豊かな自然環境と都市的な集積を生かしながら、大都市にはない個性を育てながら、これまで以上に人と物が集まる、吉野川市中流域ならではの拠点都市づくりが進められています。

吉野川市が観光振興を実現するためには、「観光客が訪れたいくなるような魅力にあふれたまちを創る」ということは、市民が愛し、誇ることでできるまちを創っていくことである」ということを意識し、市民の積極的な参画と行政の着実な取り組みが必要となります。

まず、観光客が訪れるためには「地域固有の魅力」、「その地域らしさ」が不可欠であり、地域固有の魅力こそ「市民が愛し、市民が誇る」ものとなります。

そのような「吉野川市固有の魅力」に磨きをかけ、光り輝かせるよう努力します。

また、都市観光の大きな魅力は「都市のにぎわい」、「そこにいること自体が楽しくなる空間・雰囲気」にあります。

そのためには、中心市街地、商店街の活性化問題にも通じるように、観光客と市民がふれあい、にぎわいが醸し出される「元気で、活力ある吉野川市」をつくり上げていく必要があります。

さらに、観光客が旅行先を選択する際に「憧れ」が大きな要素を占めることから、他地域に住む人々から憧れを持ってとらえられる「イメージの高い吉野川市」をつくらなければなりません。

そのような憧れの対象となるためには、「吉野川市民が豊かなライフスタイルを展開している」ということが大切であり、行政と市民が協力しながらソフト面を中心に取り組みが必要となります。

- ・市民が愛し、誇りに思うことができるまちづくり 「吉野川市固有の魅力・地域らしさ」
- ・元気で、活力のあるまちづくり 「都市のにぎわい・楽しくなる空間・雰囲気」
- ・豊かなライフスタイルが広がるまちづくり 憧れ・イメージ高い吉野川市

・事業プラン(案)について

・市民が愛し、誇りに思うことができるまちづくり「吉野川市固有の魅力・地域らしさ」

1. 「川・水」にちなんだ生活空間の創造と潤いのある景観づくり

「川のまち」のイメージづくりのため、「川の光景」に接することのできる機会づくりと市民自らが川に親しみ、川を楽しむことを啓蒙します。また、市街地周辺の田園、江川湧水源、吉野川と支流、用水、善入寺島そして遠景には高越山の山並みと比較的良好な景観が展開しています。これらにさらに磨きをかけるとともに、そうした美しい景観を背景に、市民と来訪者がともに憩い、くつろぐことができる空間の創出を図ります。

(1)吉野川八つ橋巡りツアー

市内の吉野川には各時代を象徴した橋が架かり、その風景は橋の博物館ともいえます。

(2)善入寺島散策ツアー

日本で最大の川の中にある無人島の善入寺島（東西 6 km、南北 1 . 2 km）の史跡などを散策します。

(3)水辺のライトアップ事業 ～川と水と光のファンタジー～

西条大橋、阿波中央橋、川島橋

江川・鴨島公園（キャンドルナイト in 吉野川）、江川湧水源、大正池（上桜公園）、飯尾川、麻名用水

高越大橋、ほたる館（ホタル発生期を除く）

高開石積み、川島城と植物園、梅、桜

(4)水辺の親しみ

カンドリ舟で吉野川サンセットクルージング

カヌーツーリング

水生昆虫や魚の観察、釣、カニの仕掛けなどの川遊び

暴れ吉野川の砂州アート

何にもない川原で、のんびりキャンプや川原遊び

吉野川の「川島渡し」

(5)銘水・滝の再発見

水は、すべての生命の源です。こんこんと大地から湧き出す水は、豊かな自然の宝です。

美味しい水は、食文化も豊かにします。

銘水の探索

森藤ふれあい公園の中にある龍王水、美郷にあるホタルの水の探訪、湧き水の探索を行なう

滝の探索

水神の滝や母衣暮露の滝の探訪、未発見の滝の探索を行なう

川や滝の水の結晶写真をシンボルとして売り出す

(6)ホタルを通じた水環境保全活動（エコツーリズム）

高開石積みの保護

ホタルに優しい水質保護のため石積みによる段々畑の整備と砂防対策の自然に優しい土木工法による保全整備を行なう

川田川清掃活動

ホタルの環境守るため、自然に優しい農業の取り組みや川の清掃活動を行なう

(7)自然のもてなし善入寺島「竹の駅」

善入寺島の竹を利用し、安らぎと憩いの場を整備する

竹の中の散歩道の整備

吉野川沿いに竹を使った川床を作り、地産地消レストラン

栈敷作りの、お茶や地元の素材などがいただける休憩所

(8)川島城の「お城の貸し切りプラン」

(9)花と木のある風景づくりの推進

各地域において「まちの花」を演出。公共施設、沿道、公園、一般家庭に至るまで栽培をする。

土手など花による沿道修景

川辺、沿道、まちなか等に地域性のある環境にあった樹木の植樹

善入寺島パッチワーク計画（花を植えた島を川島峠から眺望）

(10)写真家三好和義の豊かな感性で表現された楽園吉野川の取り組み

写真展・写真撮影会の開催

写真集の発刊

ポスター・パンフレットへの活用

絵葉書の製作

2. 遊び体験・農林業体験・学習体験の場の整備と演出

農山村の雰囲気を生かした、ちょっと素敵なところ、ホッとできるところ、農林業を体験し里山の豊かさを実感できるところなど、小さな魅力をつなぎ合わせて、新しいタイプのゆとりとやすらぎのある過ごし方が提案できます。そして、そこに暮らす人々とのコミュニケーションを楽しみ、その文化に触れながら、ゆっくりとくつろぐところに地域の魅力を高めます。

また、外部からの一定期間（数ヶ月～数年間）の研修就労を受け容れ、地域の労働力、将来の担い手として、研修終了後は自活へ歩み出すＩターンの促進に取り組みます。

(1)山村・農村の暮らしを味わう田舎生活体験（グリーンツーリズム）

農林業の研修就労の受け入れをする「Ｉターン自律支援型滞在」

農家民泊、農業体験、ものづくり体験（こんにゃく・豆腐づくり）

「水の学習」、「土の学習」といったテーマ別の体験学習

栽培から収穫までのできる長期で一貫性のある「体験学習」

農地レンタル（自分たちの手で栽培、収穫）

プチ農家体験（収穫体験）

梅・ゆず・すだちの木などのオーナー制度による交流

(2)「のんきな父さんが教える」川と山の遊び体験

岩津橋で水位観測

柿原堰と桶門

麻名用水と農産物

善入寺島・熱気球フライト

ほたる観察

吉野川・川田川の川遊び（昆虫、魚、水草の観察）

ツノ虫・カブトムシ採集・植物採集

手すき和紙（紙の原料（ミツマタ、コウゾ）の植樹から和紙になるまでの体験学習）

(3)「子供の水辺楽校」による小中学校での環境学習・自然体験学習等における活用

(4)阿波和紙伝統産業会館、美郷ほたる館共通入場券発行と利用者の受け入れ体制とプログラム整備

(5)個人事業所の集積や実践事例などの起業家と議論する「産業ワークショップ型観光」、あるいは、「実践事例の成果共有型観光」

3. 健康増進を体感するシステムづくり（ヘルスツーリズム）

まちなかの外に広がる野山（美郷地区）は、野草や薬草、山菜など体にいいものの宝庫であり、それを活用し、食事、運動、温泉療養、農業体験や自然と親しんだりすることにより、健康増進づくりのための健康村構想の創生に取り組みます

(1) 美郷健康村プロジェクト

健康保持（ウェルネス）に特化し、東洋医学など薬草の要素を取り入れた予防医学、心身の健康増進を図る集積に滞在する「健康積極増進型体感観光」。一定期間は、人間ドッグ、カウンセリング、オーガニック料理、運動、温泉療法等を受けながら地域の人たちとふれあう

薬草等を使った薬草風呂や薬草蒸し風呂

薬草や山菜を使った薬膳料理、山菜料理、オーガニック料理の食事

薬酒、薬茶、ジュースなどの飲料

土と戯れる、自然の中の散策などの精神衛生

(2) 10年に一度人生を見直すきっかけ型観光

食文化、食育、地産地消を軸に四国巡礼なども含めて地域独自の「健康粗食」のような食生活を体感し、生きることを見直すきっかけ型観光

(3) 晴耕雨読ステイ

のんびりと山里の生活を心ゆくまで楽しむ空き家ロングステイや空き家週末ステイ

・元気で、活力のあるまちづくり「都市のにぎわい・楽しくなる空間・雰囲気」

1. 「食」のにぎわい空間づくり

本市の観光振興のあり方を考えるとき、観光客に市街地をいかに楽しく歩き、そして回遊してもらうかが大きな課題であり、本市の「隠れた名物」を掘り起こし、それらを「食べ歩く」、「訪ね歩く」魅力を強調していく必要があります。そのためには、市民の日常的な「吉野川市名産愛用」の意識が大切であり、市民自らがそのような名物を名物として様々な機会をとらえて利用するよう啓発していきます。また、本市の特産・名産品を育て、その利用を促進し、「本場の味」として観光客に楽しんでもらうために吉野川製品のイメージアップを図ります。

(1) 名物（店）の掘り起こしとPRの工夫

店それぞれのこだわりや情熱、技術、伝統など魅力ある店を発掘し、観光客へのPRの工夫を図ります

吉野川のパブ「yakitori」のPR

菓子、豆腐、焼鳥、焼肉、そば、レストランなどの美味しい店の掘り起こし

ア. 日頃から楽しんでいる本物の味やこだわりの味など美味しい店を発掘する

イ. 名店のデータベース化（Webへ活用）

ウ. こだわり案内マップの作成

(2) 地元食材の掘り起こしと新鮮な野菜などの地産地消料理の開発

本市の特産・名産品を育て、その利用を促進し、「本場の味」として観光客に楽しんでもらうために吉野川製品のイメージアップを図ります。

善入寺ブランドの無農薬野菜の生産

川原で阿波牛バーベキュー

土地の素材を活かしたお弁当やマチ弁

そばの名物化と新そば料理の工夫、作付けからのそばづくり体験教室

イノシシ、鹿肉など猟師料理

オーガニック料理の開発

昔のなつかしい味（おばあちゃんの味）の掘り起こし

(3) 新鮮朝市とひまわり農産市の整備

新鮮野菜とパン・卵・豆腐を販売する朝市とひまわり農産市の充実

豆腐など実演・観賞可能な店舗づくりの促進

新鮮・安全野菜を活用した漬け物の生産・販売と体験教室

2．買い物のにぎわい空間づくり

商店街に人通りと、にぎわいを取り戻す有効な手だてとして、市民ばかりではなく、観光客の利用も視野に入れた「ぶらぶら歩き」、「回遊」が楽しめる商店街づくりが必要です。そのため、個々の店の創意と工夫による吉野川市の特性を感じさせる特色づくりや、個性的で魅力ある店舗づくりを目指します。

まちかどコンサート

空き店舗活用による子供チャレンジ販売

「街角広場」(ポケットパーク)の整備

まちなか集会所の整備

バリアフリー・街路の整備

3．健康と憩いの場温泉の活用

市内に湧出する温泉は、市民の身近な憩いの場であり、くつろぎの場であることから、本市の貴重な資産といえます。五つの温泉を本市の名所として、都市づくりや観光地づくりの面でより積極的に活用し、吉野川市のイメージアップにつなげます。

吉野川湯巡りスタンプラリー

五湯の共通入浴券発行の推進

吉野川五湯という名前の中で、ネーミングをつけて売っていく

朝風呂、深夜風呂の取り組み

4．地域性豊かなイベント・コンベンション会議の推進

地域性豊かな祭り・イベントは、市民文化の発露の場であるとともに、創造・発展させていく場でもあり、市民が参加しやすく、また興味を持てるような工夫するとともに、集客とイメージアップになるようより戦略的に推進していく必要があります。また、人が集まり、消費してくれ、イメージアップ効果が大きいコンベンション開催の推進を行います

(1)集客とイメージアップになるような地域性豊かなイベントの開催

祭り・イベントは、市民文化の発露の場であるとともに、創造・発展させていく場でもあり、祭り・イベントの実施にあたっては市民が参加しやすく、また興味を持てるような工夫をします。

五九郎まつり

吉野川市納涼花火大会

吉野川市阿波踊り

大菊人形・菊花展

山川つつじ祭り

こうつウォーク in 吉野川

美郷ほたるまつり（竹の栈敷席に座ってホタル鑑賞）

美郷梅の花祭り

吉野川市温泉祭り

吉野川コレクション（ヨシコレ）

(2) コンベンション開催の促進

コンベンション（会議）は、「人が集まり、消費してくれる」効果と同時に、参加する人々が地域活性化の情報を運んでくるとか、開催を契機として「先進地」としてのイメージが確立できるなどという有形無形の効果があり、本市としてもコンベンション（会議）の開催を積極的に促進します。

「忌部サミット」の定例開催

「ほたるサミット」、「石積みサミット」の創設

コンベンション（会議）学会開催の誘致

スポーツ大会の誘致

吉野川ハーフマラソン・美郷一周駅伝、スポーツ大会、スポーツ教室の開催

・豊かなライフスタイルが広がるまちづくり「憧れ・イメージ高い吉野川市」

1．歴史遺産の活用・発展

「忌部・古事記物語」と「四国八十八ヶ所十一番 藤井寺」は、「吉野川」と並んで本市の地域個性を象徴するものであるとともに、吉野川市の歴史資産です。また、このような「吉野川市の魅力と真髄」を対外的に伝えていくために、へんろ道、忌部の里・古事記物語そのものとゆかりの歴史遺産を紹介していきます

忌部の里づくり・古事記物語の冊子の作成

忌部の里づくり・古事記物語のマップの作成

最後まで残った空海の道ウォーク 吉野川コース、へんろころがしコース

2．緑空間と生活空間のネットワークづくり

市街の外に広がる緑空間（高越山、美郷）は、市民にとって自然とふれあう貴重な憩いの場であり、また手軽なレクリエーション空間となっています。このような広大なレクリエーション空間が市街からほど近いところに存在するということが、市民生活の豊かさを示すことになります。また、生活空間のネットワークは交通ネットワークが基本であり、市民の生活の質、ひいては観光客に対する交通サービスの向上という観点から、市内散策ルートなど道の整備などに努めます。

(1) サイクルツアーの取り組み

サイクリングを楽しみながら吉野川市の魅力をゆっくりと堪能します

(2) 「とるば」の取り組み

安全な駐車場とそこから歩いていける美しい風景の撮影スポットの紹介します

(3) 自然歩道・散策路の整備

遍路道の整備（癒し、やすらぎを与え、休憩所などで人々と交流を図れるスポット）

高越山等への林間散策路を整備

峠の山道の整備

「ハイキング案内地図」の発行

休憩広場、あずま屋の整備

案内・誘導板・標識の整備

特徴ある散策ルートづくり（歴史の道など）

江川湧水源や麻名用水など水の散策路の整備（水が流れるよう整備、魚の放流）

市内のストリートに愛称をつける

(4) J R 駅と各施設の連絡システムの整備

連絡バスの運行

(5) 吉野川市内における観光案内体制の整備

観光地点での対応、さらに本市について詳細な案内紹介ができるガイド等の育成を促進します。

観光案内機能の整備

観光案内所の設置

ボランティアガイドの登用

観光協会の組織強化

3. 自然風土・歴史に根ざした市民文化の振興

観光振興の取り組みは、市民の様々な活動、市民参加があつてこそ可能となるものであり、本市の自然風土や歴史に根ざした市民活動の振興に努め、伝統を継承しつつ新たな市民文化の創造を目指していきます。

(1) 様々な市民活動の振興

市民参加による地域づくりの基本は、市民みずから積極的に芸術・文化活動に取り組み、また住んでいるまちについて知ることであり、そのための取り組みを促進します。

生涯学習の推進、体制整備

市民の芸術・文化活動の活性化

吉野川市魅力再発見ツアーの企画

市民大学、市民講座での企画

(2) 景観形成への市民参画（地域の魅力のデータベース化）

美しい景観づくりの主人公は、市民一人ひとりであり、住宅、店舗といった私的空間はもちろん、公共空間の景観形成とその管理にも市民参加が期待され、市民の景観への関心を高めるために次の取り組みを展開します。

大好きな風景フォトマップ

市民から四季折々の吉野川市の風景写真を募集し、この時期にこの場所でこの方向から見る事ができる「とっておき風景」のフォトマップの作成

花・植物・野生動物・建造物フォト図鑑

市民から四季折々の吉野川市の花などの写真を募集し、この時期にこの場所で見ることが出来る花フォト図鑑などの作成

(3)日本一きれいな川を目指して

吉野川の絶えることのない美しい流れは私たちの暮らしに大きな恵みを与えてくれます。その吉野川を日本一清潔で美しい川にするために、清掃ボランティア活動により、吉野川河川敷の散乱ゴミを取り除き、美しい河川環境を創る新しい取り組みを行います。

河川清掃活動の実施

(4)情報発信

旅行者、（対象市場における）、一般消費者、観光客、市民それぞれのニーズを踏まえた紹介パンフレット類の制作

対象市場に対応した発信情報の明確化

インターネットの活用（吉野川コンシェルジュWeb）

吉野川市等の案内ホームページとの連携

「吉野川市ふるさと大使制度」の導入

吉野川市ゆかりの人々、吉野川市外部応援団（市外居住者）等を対象として委嘱し、情報発信をしていただく

(5)観光関連産業の振興及び人材の育成

本市の観光関連産業は発展の緒についた段階であり、今後さらに飛躍を図るために、一度訪れた人々に「満足して帰っていただく」ということを基本とした人的なサービス、もてなしを含めた「魅力ある商品」の提供を促進します。

また、観光関連産業は人々に「ホスピタリティ（もてなしの心）を売る産業」としてとらえられ、利用客に喜ばれるホスピタリティの創出、演出を促進します。